

庄和北部地域 学校再編 増築校舎基本計画



平成 28 年 11 月 8 日

春日部市教育委員会

～ 目 次 ～

1. 学校施設整備の基本的な考え方

- 1) 小中一貫教育の効果を最大限に発揮できる学校施設づくり ・ P1
- 2) 安心して安全な学校施設づくり ・ ・ ・ P1
- 3) 地域に開かれた学校施設づくり ・ ・ ・ P1

2. 増築校舎の計画

- 1) 配置の検討 ・ ・ ・ P2
- 2) 階数の検討 ・ ・ ・ P4
- 3) 増築校舎の部屋 ・ ・ ・ P4
- 4) 増築校舎の基本計画 ・ ・ ・ P5

3. 今後のスケジュール（案） ・ ・ ・ P8

4. その他

- 1) 学校敷地 ・ ・ ・ P9
- 2) 既存校舎の改修 ・ ・ ・ P9
- 3) 体育館倉庫 ・ ・ ・ P9
- 4) 部室 ・ ・ ・ P9
- 5) プール ・ ・ ・ P9
- 6) 遊具 ・ ・ ・ P9

1. 学校施設整備の基本的な考え方

1) 小中一貫教育の効果を最大限に発揮できる学校施設づくり

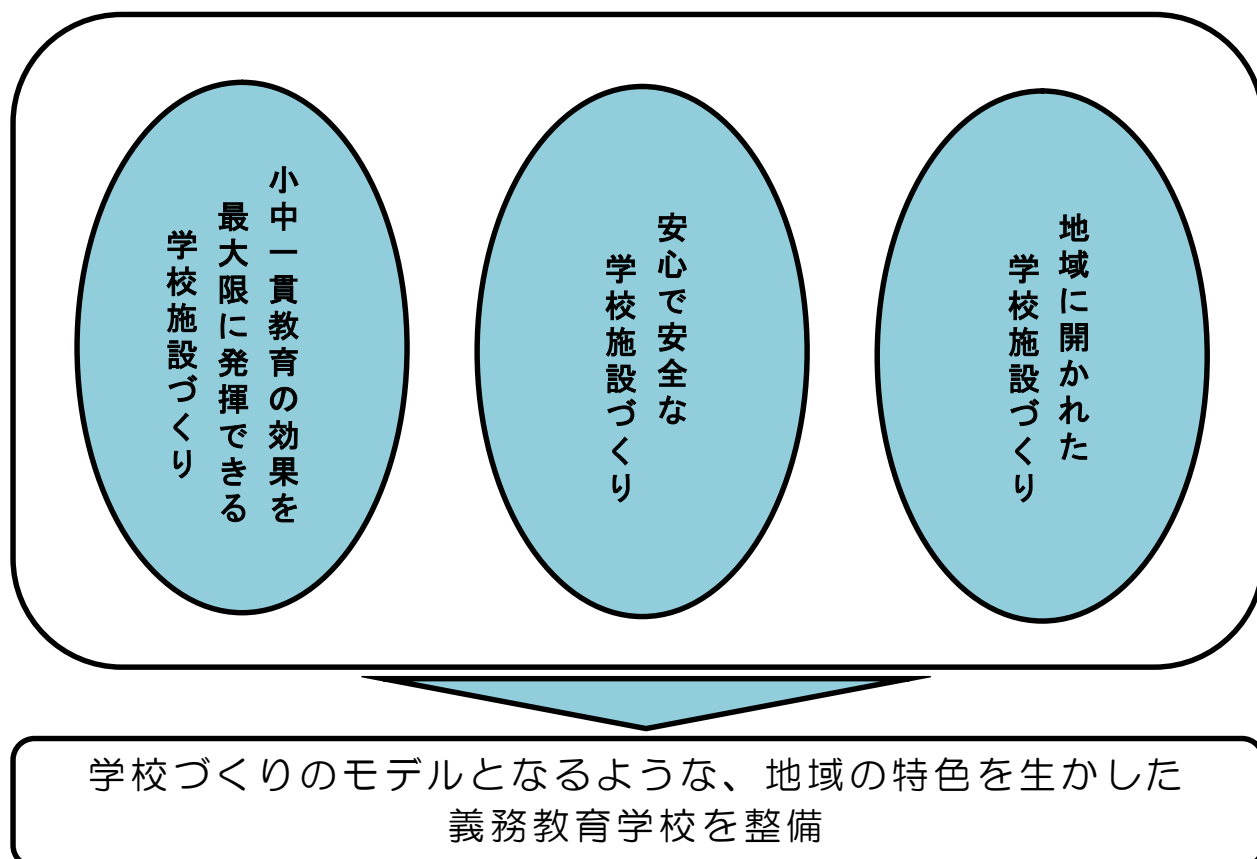
- ① 4・3・2制の学習型を導入し、併せて5年生から教科担任制を導入することから、現在の小学校5、6年生と中学校1～3年生の教室を同一の校舎に配置する。
- ② 新しい学習型の導入に伴う時間割を考慮し、学習環境を整備する。
- ③ 各学年の学習や活動に見合った図書スペースを整備する。
- ④ 異年齢交流学习や異年齢交流活動ができるスペースを整備する。

2) 安心で安全な学校施設づくり

- ① 小学校1～4年生については、昇降口から教室までの動線上に床の高さの違いによる階段などが生じないように配慮する。
- ② 昇降口にスロープを設置する等、施設のバリアフリー化を図る。
- ③ 災害発生時の避難などを考慮した安全な施設とする。
- ④ 職員室からグラウンドで活動する子どもたちの様子や校舎全体を見守ることができるなど安全管理を考慮した施設配置とする。

3) 地域に開かれた学校施設づくり

- ・ 地域との交流活動ができるスペースを整備する。

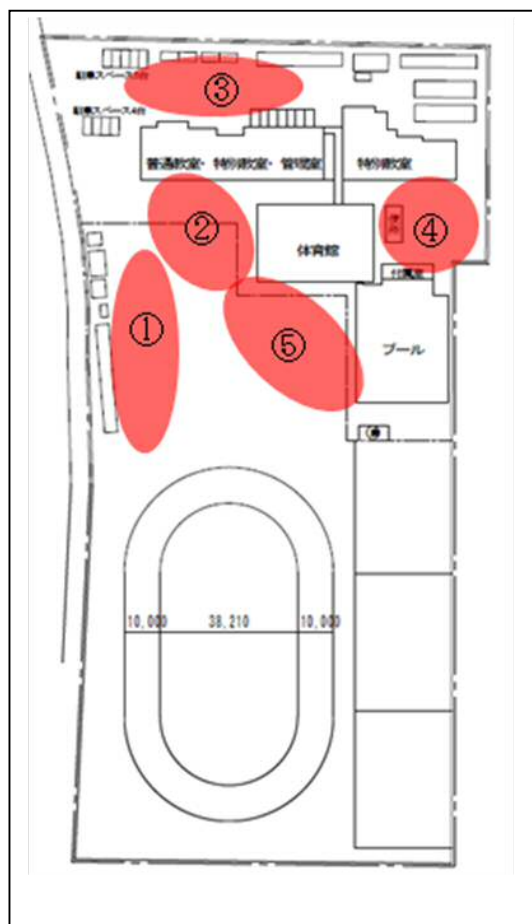


2. 増築校舎の計画

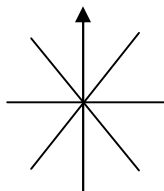
1) 校舎位置の検討

増築する小学校1年生～4年生の校舎の配置について、配置①～⑤を様々な視点から検討した結果、配置①、⑤を候補とする。

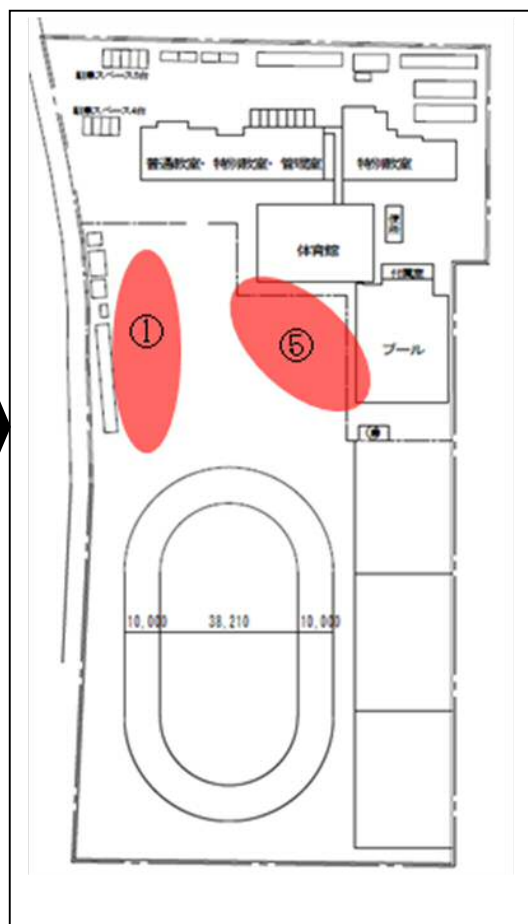
《配置①～⑤の位置》



比較
検討



《候補地：配置①・⑤》



《校舎位置の比較検討》

No	比較項目	配置①	配置②	配置③	配置④	配置⑤
1	教室環境の快適性	グラウンドに面し、採光・通風を確保できるが、教室が東向きになる。	グラウンドに面し、採光・通風を確保できる。教室が南向きになる。	南側に既存校舎があるため暗くなる。	既存校舎等に囲まれるため暗くなり、風通しも悪い。	グラウンドに面し、採光・通風を確保できる。教室が南向きになる。
		△	○	×	×	○
2	職員室からのグラウンド及び増築校舎の管理	グラウンド及び増築校舎を直視することができる。	グラウンドを直視することができないが、増築校舎は直視できる。	グラウンドを直視することができるが、増築校舎は直視できない。	グラウンドを直視することができるが、増築校舎は直視できない。	グラウンドを直視することができるが、増築校舎は直視できない。
		○	×	△	△	△
3	グラウンドの広さの確保	一部減少するが、十分な広さを確保できる。	一部減少するが、十分な広さを確保できる。	グラウンドの広さは変わらない。	グラウンドの広さは変わらない。	一部減少するが、十分な広さを確保できる。
		△	△	○	○	△
4	駐輪場・配膳室への外動線確保	動線は確保される。	動線は確保される。	増築校舎により動線が狭くなる。	動線は確保される。	動線は確保される。
		○	○	△	○	○
5	4・3・2制の学習型への配慮	既存校舎等が離れているので授業時間の違いによる影響が少ない。	既存校舎等が近いので授業時間の違いによる影響が生じる。	既存校舎等が近いので授業時間の違いによる影響が生じる。	既存校舎等が近いので授業時間の違いによる影響が生じる。	既存校舎等が近いので授業時間の違いによる影響が生じる。
		○	△	△	△	△
6	グラウンドまでの距離	③、④と比較して短い	③、④と比較して短い	①、②、⑤と比較して長い	①、②、⑤と比較して長い	③、④と比較して短い
		○	○	△	△	○
7	駐車スペースの確保	駐車スペースは変わらない。	駐車スペースは変わらない。	駐車スペースが狭くなる。	駐車スペースは変わらない。	駐車スペースは変わらない。
		○	○	×	○	○
8	体育館までの距離	②、④、⑤と比較して長い	①、③と比較して短い	②、④、⑤と比較して長い	①、③と比較して短い	①、③と比較して短い
		△	○	△	○	○
評価結果		○	△	×	×	○

2) 階数の検討

増築校舎の階数を検討した結果、1階建てとする。

《階数の比較検討》

No	比較項目	1階建て	2階建て
1	バリアフリー化	昇降口から増築校舎の各室までの段差を解消できる。	2階への階段が必要となり、段差が解消できない。 ※段差解消するためにはエレベーターが必要になる。
		○	×
2	災害時の避難	各室からグラウンドへ直接避難することが可能となり、避難距離が短い。	2階の各室からグラウンドに直接避難ができず、避難距離が1階建てと比較して長くなる。
		○	△
3	グラウンドの広さの確保	2階建てと比較してグラウンドの減少面積は多いが、十分な広さを確保できる。	1階建てと比較してグラウンドの減少面積は少なく、十分な広さを確保できる。
		△	○
4	学習環境への配慮	各室から生じる音の影響は少ない。	2階の活動内容によっては、足音や机等の移動音などが階下に影響する。
		○	△
評価結果		○	△

3) 増築校舎の部屋

- 小学校1～4年生の教室を配置し、トイレなど必要となる附属室を整備する。
- 小学校1～4年生向けの図書室を整備する。
- 異年齢交流学习、異年齢交流活動や地域との交流活動ができるスペースを整備する（ランチルーム）。

4) 増築校舎の基本計画

1) ~ 3) を踏まえ、さらに配置①・⑤について「校舎整備への影響」、「遊具の配置」、「西側道路」を比較検討した結果、**配置①の位置で階数1階建ての校舎を整備する計画**で建築設計を進めるものとする。

《配置①・⑤の比較検討》

No	比較項目	配置①	配置⑤
1	校舎整備への影響	学校用地の西側寄りであり、既存校舎・体育館とも離れているため、将来の施設整備への影響が少ない。	既存施設に隣接するため、将来の施設整備に支障が出る恐れがある。
		○	△
2	遊具の配置 (配置①、⑤周辺に配置することを前提)	体育館の南側に遊具を配置することにより、時間割の違いによる学習環境への影響は少ない。	時間割の違いにより、既存校舎から遊具活用が見え、既存校舎での学習環境に影響が生じる。
		○	△
3	西側道路	距離が近い場合、交通車両による騒音・振動への配慮が必要となる。(技術的な対応は可能)	離れているため、交通車両による騒音・振動の影響は少ない。
		△	○
評価結果		○	△

増築校舎は、

★配置①の位置に

★1階建て

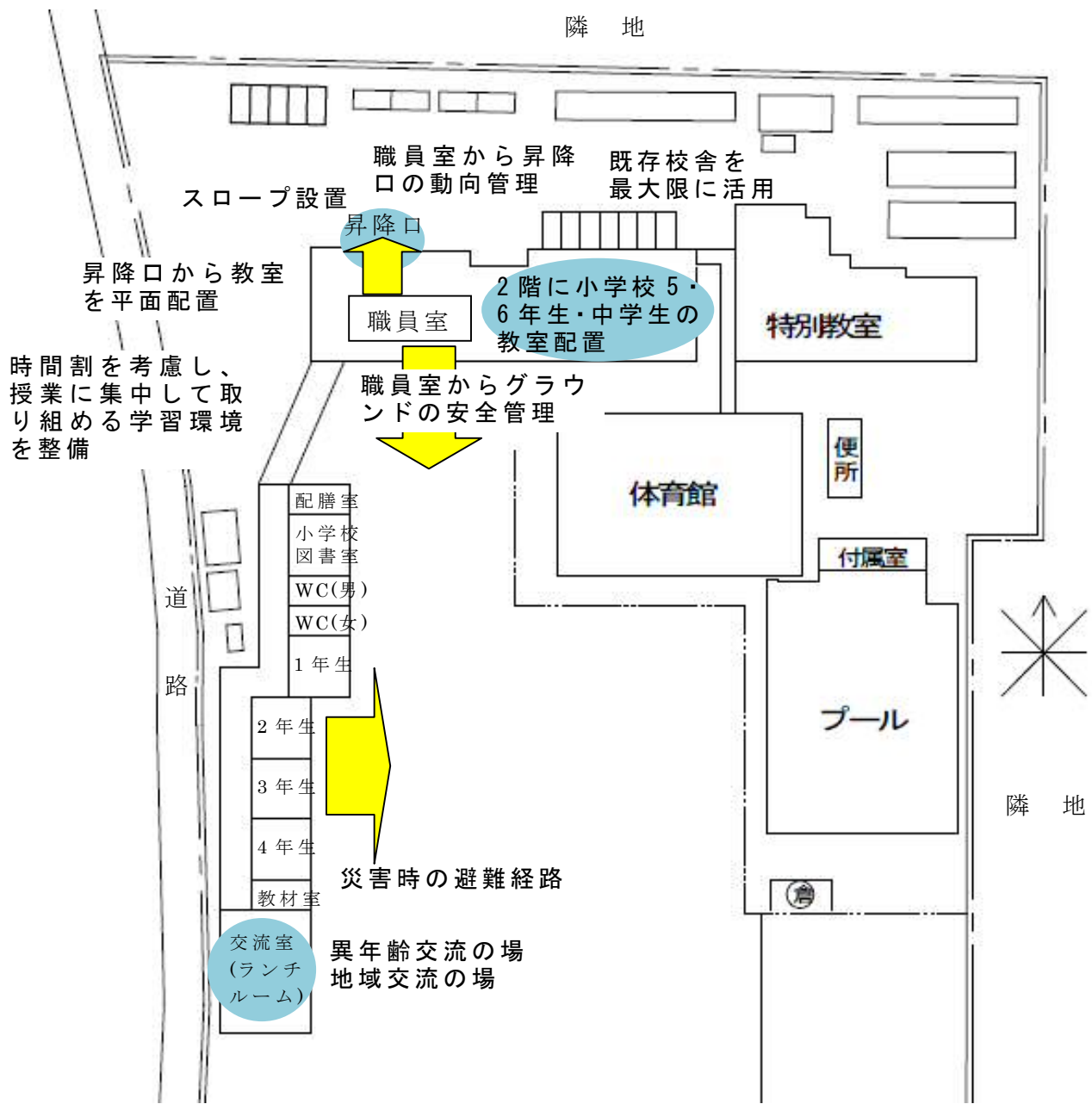
で整備する計画で建築設計を進める。

なお、各室の配置については、以下の教育的観点に留意して建築設計を行うものとする。

《建築設計上の留意事項》

教室	<ul style="list-style-type: none">・学習の場、生活の場として最も長い時間を過ごす空間であることから、落ち着いて学習できる環境となるよう配慮する。・東向き窓になることから、必要な採光量と確保を検討する。・交通車両による騒音・振動については、学校環境衛生基準を参考にするとともに、十分に配慮した設計を行う。
交流室	<ul style="list-style-type: none">・異年齢交流学習、異年齢交流活動や地域との交流活動などを初めとする様々な用途に対応できる多様性のあるスペースとする。
図書室	<ul style="list-style-type: none">・小学校1年生から4年生の体格等に配慮し、利用しやすいように規格寸法を採用するとともに、楽しい読書学習の室内環境を計画する。
トイレ	<ul style="list-style-type: none">・現在の生活環境に配慮するとともに、子どもたちや地域の人たちが利用しやすいトイレとなるように整備する。

《 配置①の位置での増築校舎案 》

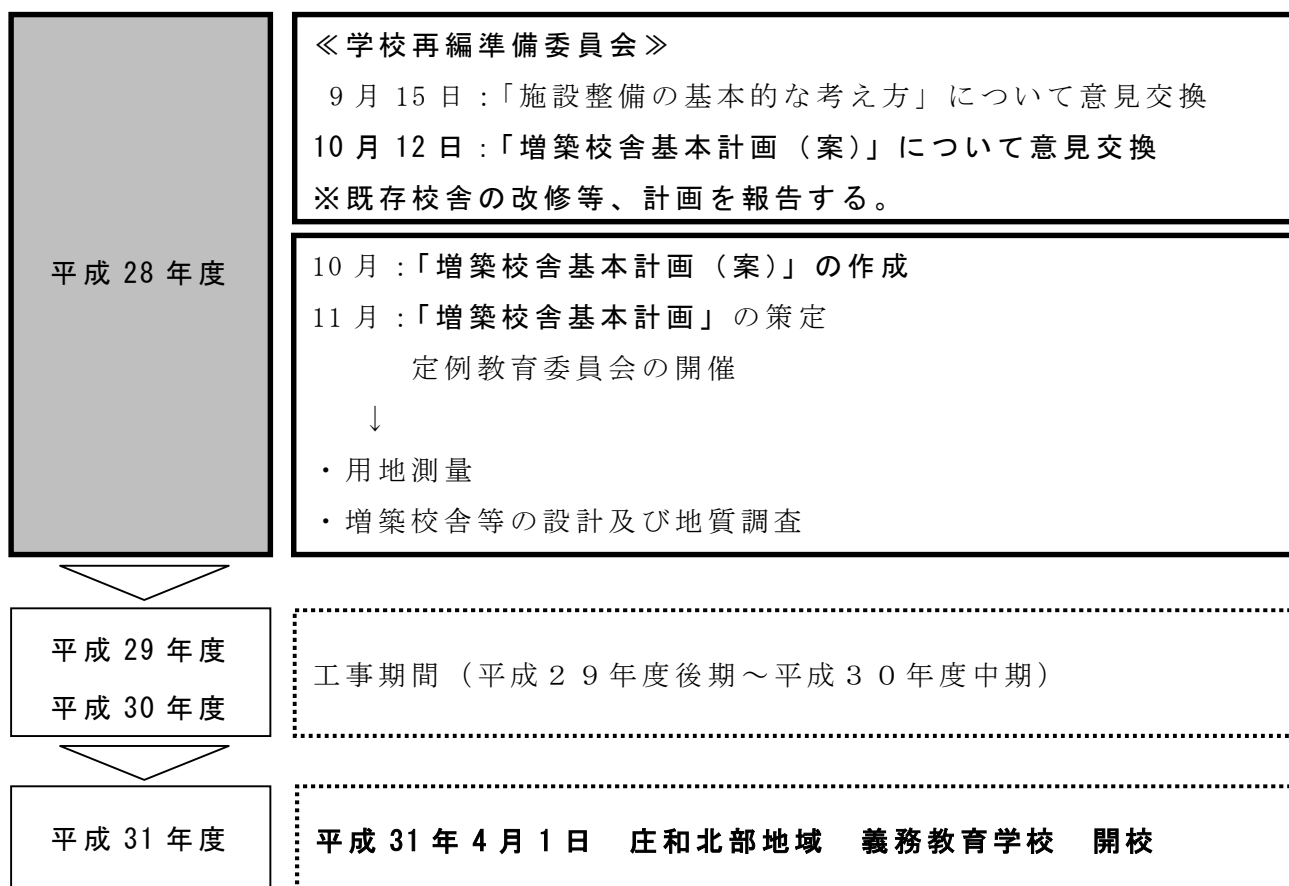


※各室の配置等については、学校と協議・検討を行う。

3. 今後のスケジュール（案）

平成31年4月1日の開校に向け、地区の代表者やPTAの代表者等による学校再編準備委員会と意見交換をしながら、以下のスケジュール（案）で施設整備を進めていくものとする。

■今後のスケジュール（案）



4. その他

1) 学校敷地

増築する校舎の配置や現在のグラウンドの広さから、一定のグラウンド規模を確保できることから、学校敷地の拡張は行わないものとする。

《市内小中学校のグラウンド面積》

	児童生徒数(※1)	運動場面積
庄和北部地域	約170人	15,359㎡(※2)
備後小学校	約290人	7,208㎡
中野小学校	約330人	12,463㎡
緑中学校	約320人	11,209㎡
大增中学校	約320人	15,812㎡

※1 平成31年度の想定児童生徒数

※2 現状の運動場面積から増築校舎の敷地となる面積1,000㎡(想定)を減じた。

2) 既存校舎の改修

- ・改修内容としては、主に1階部分において、教職員の増加による職員室の拡張や児童のための昇降口の拡張など、学校と協議をした上で、必要となる間取り等の変更改修を行う。

3) 体育館の倉庫

- ・既存建物と一体となる増築は、規模によっては建築基準法等の規制対象となることから十分な検討を行う。
- ・必要な面積等について学校と協議し検討する。

4) 部室

- ・学校再編に伴い、部活動種目等の見直しが行われることから、部室を必要とする種目を確認し、位置や規模等について学校と協議し検討する。

5) プール

- ・児童と生徒で身長差が大きいことから、水泳授業に際し支障が生じないように配慮する。

6) 遊具

- ・配置については、4・3・2制の学習型を考慮し体育館の南側を想定しているが、詳細については学校と協議し検討する。

※2)～6)については、今後具体的な計画を作成し、適宜学校再編準備委員会に報告するものとする。